

て植ゑたり、井戸神社として祭らる。
二、昆陽の傳は大日本人名辭書に詳し、就きて見るべし。

第十一課 たしかな保證 (凡二時間)

商人の具有すべき心得を作話によりて具體的に示せるもの、獨り商人のみならず、凡て斯の如く有りたきことを試むる材料なり。

注意

一、本課は修身科と連絡して、清潔、謹慎、親切、謙遜、緻密、溫順等の美德なることを感得せしむべし。

二、商會「志望者」知名ノ人「美質」等の語に注意して教授すべし。

第十二課 水師營の會見 (凡二時間)

本課は乃木、スエツセル兩將軍の會見の有様を叙せり、武將の淡泊なる面目、嚴格なる肝膽、並に乃木將軍の忠誠、髣髴として表はれたる會見の場面、及び兩將の心情を想像せしめ、本教材を活かして取扱ふを要す。

注意

一、昨日ノ敵ハ今日ノ友「我ハタ、ヘツカノ防備彼ハ稱ヘリ我ガ武勇」ヒラメキ立テリ

日ノ御旗の氣持よき書振り、並に「防備」死所ヲ得タル「武門ノ面目」握手等の語句に注意して授くべし。

二、叙事詩の趣味ある所を味はしむべし。

三、本教材を取扱ふには、初めに豫備的説話をなすべし。

備考

大役小誌を参照すべし。

三十八年一月五日正午、乃木、スエツセル兩將軍會見、乃木將軍の二子とは南山にたほれたる保典二〇三高地に戦死せる勝典の兩氏を言ふ。

第十三課 花 菴 (凡二時間)

本課は花菴の製造業が、今日の如く盛大にして、我が國の輸出品として著名なるものに至らしめたる所以を述べたる實業材料なり、此によりて實業的奮發心を喚起せしむるを要す。

注意

一、失敗ノ上ニ失敗ヲ重ネ、赤貧洗フガ如キ有様等の修辭に注意して教授すべし。

二、發明者の苦辛せる所を想像せしむると同時に、而も二人の工夫にして尙且つ一國

の輸出品を増加する程の効果を來すものなることを深く悟らしむべし。

第十四課 模様と色 (凡三時間)

本課は模様及び色に關する知識を授け兼ねて意匠の趣味を養はんとするにあり。

注意

- 一、間合「感覺」唐草模様「千種萬様」調和「欄間」等の語は特に注意して授くべし。
- 二、本教材は初めより見ては讀み讀みては見ると言ふ風に圖と引き合せて、其の内容を知らしむる様に取扱ふべし。
- 三、教科書には止むを得ず彩色なきを以て特に注意して教具を準備するを要す。

第十五課 齋藤實盛 (凡三時間)

本課は軍記物の一つにして、恩義面目を重んぜる古武士の面影を偲ばしめんが爲の材料なり。

注意

- 一、「見參」「イフマ、ニ」「首ヲカク」「草ズリ」「存スル由アリ」「ヒタ、レ」「京家」「坂東聲」「別當」「幼目」並に「ヨキ敵ゾ組ミ給ヘ」「組メヤ手塚「ツヤ／＼ト」「アナムザンヤ」「イカデ」「カ、ル幼キモノニ」刀ヲ立テシテ」「鎧ノ袖ヲシボル」等の語句は丁寧な解釋して、其の意義妙味を了解せしむべし。
- 二、本課を教ふるに當りては、豫め事實の大要を説話し置くを要す。
- 三、本文は鎌倉時代の軍記物語の口調を真似て起述したるものなれば、注意して教授すべし。

備考

本課は源平盛衰記によれる材料にして、題、眞盛討たる付朱買臣錦の袴並新豊縣翁の事の事實なり、行文大體源書の口調を存す。

第十六課 兵營内の生活 (凡三時間)

第八課に連關したる報知文なり、此によりて兵營内の生活状態を知らしむべし。

注意

- 一、「御無音」「起床」「消燈」「人員點呼」「術科」「分隊教練」「酒保」「注意ノ周到」「營倉」「拜具」等の語句に注意して教授すべし。
- 二、第八課「入營スル友ニオクル」の返事なることに注意めしめ、且つ返事延引の形式を遺漏なく授くるを要す。
- 三、兵營内に於ける規律につきては特によく授くるを要す。

第十七課 足尾銅山 (凡三時間)

足尾銅山の模様を記し、鑛山事業に關する思想を養はんとする散叙的記事文なり。

注意

- 一、當初「造管」「有敷」「坑道」「發掘」「選鑛場」「製鍊場」等の語、並に此に關する知識を授くべし。
- 二、鑛山に關する寫眞又は繪畫を用意し、内容をして直觀するが如くならしむべし。

第十八課 捕鯨船 (凡二時間)

捕鯨の勇壯なること、捕鯨の方法並に鯨は如何に有用なるものかを示したる材料なり、漁業の思想を養ふべし。

注意

- 一、名殘「サ、波」「甲板」「破裂」等の語句、並に「ソヨ／＼ト吹ク風ニ海面ハサ、波ヲ立テテキル」「小山ノ様ナ白波ガ高ククダケテタ立ノヤウニ降散ル」の修辭を注意して授くべし。
- 二、初めは美文を以て叙し、後に説明文を以て叙したることに注意すべし。

備考

是の課の捕鯨法はデンマルク式と稱する所謂新式のものなりと言ふ、「プロ」とは水

夫の慣用語、鯨を發見せしことの意なり、初めの捕鯨法は亞米利加式にて、後の備砲より銚をうつ法は那威式なりとか。

第十九課 勇ましき少女 (凡二時間)

本課は英文讀本より翻譯したるグレイズダーリング嬢の勇敢なる事實を叙したるものなり、以て勇敢の氣象並に同情心を養ふべし。

注意

- 一、「帆前船」「悲鳴」「難破船」「人間業」「心ナラズモ」等の語句、並に「墨ヲ流シタル如キ空模様ニテ、一寸先ヲモ見分クルコト能ハズ」「熱キ感謝ノ涙」「勇マシクヤサシク且ハ麗シキ昔物語ヲ語レリ」の修辭に注意して教ふべし。
- 二、末段西洋文口調を眞似たり、よく味はしむべし。

備考

本課に關しては趣意書に出づ、就きて見るべし。

グレイズダーリングは英國ファーン島の燈臺看守人の娘にして、一八一五年に生れ、一八四五年に死せり、一八三〇年ホレルファーンシャイ號遭難の際九名の水夫を救助せり、時に二十一才、依りて其の勇敢なるを賞せられ、七千圓の賞金を贈られたりとなり。

第二十課 温泉 (五時間)

温泉の成因効用並に我が國に於ける温泉地に就きて述べたる記事文なり。

注意

- 一、二種ノ臭氣アリ味アリ色アリ「前面ハ海ニ臨ミ後ハ山ヲ負ヒ冬暖ニ夏涼シ」俗客アフル、バカリ」の書振りに注意せしむべし。
- 二、本教材は地理科と連絡して教授すべし。
- 三、温泉の成因を表はせる圖及び温泉地を明かにする地圖等を準備すべし。

第二十一課 人ノ身體 (凡二時間)

人體の構造及び各部の作用に就き、大略の知識を與へ、兼ねて衛生に注意するの習慣を養ふを要す。

注意

- 一、目ハ色形ヲ見耳ハ音聲ヲ聞キ鼻ハ香ヲカギ口ハ味ヲ味ハヒテの並列的記載方法を會得せしむべし。
- 二、物事ヲ知り分クルモ善惡ヲワキマフルモ喜ブモ怒ルモ悲シムモの疊句の用法を會得せしむべし。

三、人體生理圖を示して理科と連絡して説明するを要す。

第二十二課 あいぬの風俗 (凡二時間)

本課はアイヌ人の風俗及び生活の状態を知らしむるを以て目的とす。

注意

- 一、「入墨」アツシ織「珍味」(ホツタテ小屋「算數等の語句は注意して授くべし。

備考

一、北海道舊土人保護法は明治三十二年三月法律第二十七號にて公布せられたり、左に其の一條を示さん。

第一條 北海道舊土人にして農業に従事するもの又は従事せんとするものには一戸に付土地一萬五千坪以内に限り無償下附することを得。

二、ちひようは一名アツニ又はアツシと言ふ楡科植物にて、高さ一丈に達す、樹皮黄赤色を帯ぶ葉は倒卵形にして尖端に三尖起あり、互生葉なり。

第二十三課 家畜 (凡二時間)

家畜の種類及び効用を教へ、家畜を愛護するの念を養ひ、兼ねて家畜業を奨励せる材料なり。

注 意

一、使役「ホフル」スタリ「軍功」勞ル「成分」等の語は注意して教ふべし。

第二十四課 松の下露 (凡二時間)

本教材は歴史科と進度を合せ、亂世の順逆轉倒の際に於ける至尊の御困難の有様を叙したるものなり、忠君の情を涵養すると同時に、叙事詩の趣味を養ふべし。

注 意

- 一、韻文教授上の注意は前に同じ、特に「イコハセ給フ」「ヤミノ天地」「行在所」「雲霞ノ敵兵」行方モ知ラズ落チ給フ「供御」及び君臣の歌につきては注意して教授すべし。
- 二、序詞「サシテ行ク」は出初めなり注意すべし。
- 三、感極まりし所、充分謹慎の態度にて感情を以て取扱ふべし。

備 考

太平記三、主上笠置を御没落の事を参照すべし。

第二十五課 講話會の案内文 (凡二時間)

本課は案内文並に同返事の形式を知らしむると共に、一面には耕地整理に関する知識を授けんとするにあり。

注 意

- 一、耕地整理「學理」ニモ通ジ「有志ノ方々」來會「臨席」熟考「参考」等の語は注意して授くべし。
- 二、追て書の所は、只漠然と通さず、其の形式を會得せしむべし。
- 三、本課の返事は承諾の意を表はせども、書き方手本には断りの返事を載せたり、兩者遺漏なく適當に教授すべし。
- 四、本文に倣ひて他の案内文の綴り方を練習せしむべし、學藝會、談話會等其の他。

第二十六課

大和巡り (凡四時間)

第二十七課

本課は大和の重なる名所につきて、地理、歴史上の事柄を記したる記行的記事文なり、此によりて懐古の情を養ふべし。

注 意

- 一、本課は形式、實質、均等の價值を有す、斯る教材は地理及び歴史教授に陥り易きものなれば、國語科本來の趣旨を誤らざらんことを要す。
- 二、歴史上の事實は適當に敷衍して、深く昔を偲ばしめ、名所たる價值を發揮すべし。
- 三、地圖及び名所寫真等を準備すべし。

備 考

- 一、九四頁の繪は猿澤池と興福寺の五重塔とを示し、九九頁の繪は長谷觀音堂、一〇二頁の繪は檀原神宮を示したるものなり。
- 二、伊勢大輔の歌は詞花集に出づ、三笠山の歌は古今集羈旅の部にあり、紀貫之の歌は古今集春の上にある。

國 定 教 科 書 取 扱 法 讀 本 尋 常 第 六 學 年 (卷 十 一)

第 一 課 吉 野 山 (凡 三 時 間)

地理材料と歴史材料とを連絡して、吉野山の光景を記述したるもの、文學的趣味を養ひ、且つ説明的記事文を練習せしむるにあり。

- 一、光景「眺望」マノアタリ「トブラフ」山腹「決死」崩御等の語に注意して授くべし。
- 二、行ク／＼全山花ノ雲に包マレタル吉野山「コレハ」落チサセ給フ「名ヲゾトムル」住マハシメ給ヒシ「櫻樹アラザルハナシ」等の句に注意して授くべし。
- 三、本課を授くるに當りては、地理卷一奈良縣、歴史卷一南北朝、讀本卷七楠木正行、同卷十大和巡り等を参照すべし。
- 四、普通の文體と異にして、和歌を以て起首としたることに注意すべし。
- 五、和歌俳句の意義を充分明瞭ならしむべし。

備 考

- 一、吉野山は昔より櫻樹を伐ることを禁じ、薪の中に交れる小枝すら之を焚かずと云ふ。

二、藏王堂は延元の亂に後醍醐天皇の行在所を置き給ひし所にして、賊將高師直のため焼き拂はる、後豊臣秀吉之を修造す。

三、藏王堂の前に四本の櫻あり、護良親王が最後の御酒宴を催され、舞樂を奏せしめられし處にして、南門の跡は義光の割腹せし處なりと云ふ。

四、コレハの俳句は、安原貞室の句なり、貞室は松永貞徳の門人にして、延寶元年(二三三三年)六十四才にて歿す。

五、如意輪寺は如意輪山の半腹にあり、後醍醐帝の屢幸し玉ひし處、正平中兵火の爲に堂塔皆焼失す、後小堂を建てたれども、漸く廢頽せるにより、近頃維持金を募り、多少面目を一新せり、寺内に正行の埋警塚あり。

六、竹林は院當時吉野衆徒の遺址なり。

七、歌書よりも云々、俳句は各務支考の句なり、支考は美濃の俳人にして、蕉門十哲の一人なり。

八、起首の歌は藩摩藩士八田知紀の作なり。

九、六田はムタの渡と讀むべし。

第二課 蜜 蜂 (凡三時間)

蜜蜂の共同生活の有様を知らしめ、理科的思想を養ひ、文語體記事文を練習せしむる

にあり。

注 意

一、共同ノ生活ヲ營ム、終日「勞動ス」、一群ノ生計ヲ維持ス、居室「百花滿開ノ候」、外役ノ蜂「營々トシテ寸時モ休マズ」、一ニ其ノ勞役ノ結果ナリ「強ヒテ」立ドコロニ「任務」分離「飼養者」親密ニ「敵視ス」、氣候「不順」銳利ナル針「防禦」群集生活「共同團結」イトハズ「有カナル武器」團體等の語句に注意して授くべし。

二、本課は蜜蜂の効用に就きては記述せざれども、便宜附加して授くるを可とす。

三、雌蜂ハ女王トモイヒ唯一匹……働蜂ナリ等の合文多ければ、注意して取扱ふべし。

四、總括として蜜蜂の種類、任務、群集生活を營み得る理由等を表解せしむるを可とす。

五、兒童をして蜜蜂を飼養せしむるを得ば、一層有効なるべし。

第三課 分 業 (凡三時間)

分業の意義、利益及び種類等を知らしめ、經濟思想を養ひ、口語體説明文を練習せしむるを以て要旨とす。

注 意

一、「複雜」「軸木」「分業」「引合フ」「才能」「温室」「適不適」「熟ス」「徒ニ」「共同一致」「完全」「文明」「官公吏」「事

務等の語に注意して授くべし。
 二、本課には、農夫の田畑を耕し、大工の家屋を造り、商人の物品を賣買し、官公吏の事務を取扱ひ、教師の生徒を教育する等の如き並列せる語多ければ、注意して授くるを要す。

三分業の利益を知らしむるには、適切なる例をあぐること必要なり。
 四、總括として本科を表解せしむること最も可なり。

第四課 兒島高德 (凡三時間)

兒島高德の義勇を知らしめ、兼ねて忠君の念を涵養するを以て要旨とす。

注 意

一、「天萬乗」極ミナク「駕リイキドホルホド」
 「チマタ」仕ウマツル「警固」ヨロヒノ袖ヲ
 シボル「主上」オハシマス「義兵」落チル「志士仁人」セメテモ「トカヤ」イデヤ「臨幸」路次
 「同ズ」遷幸「山ノ雲ヲシノグ」チリト「所存」バヤ「行在所」ツブサニ「報復」雪グ「故事」等
 の語に注意して授くべし。

二、「流シ奉ル」遷シ奉ル「ウバヒ奉リ」等の敬語の用法に注意せしむべし。

三、「」符の用法に注意せしむべし。

備 考

一、全體の事實は太平記、志士仁人の句は論語、天勾踐云々の句は史記又は十八史略を参照すべし。

第五課 瀬戸内海 (凡三時間)

瀬戸内海の位置、景色、名勝等を知らしめて、地理的思想及び趣味を養ひ、兼ねて我が國土の美を感ぜしむるにあり。

注 意

一、「散在」アヂヤカ「點在」ノドカ「小波」出沒「一段」オモムキ「通交」タナビク「名勝」感興
 等の語に注意して授くべし。

二、本課には、合文及び美辭佳句多ければ、充分熟讀玩味せしめ、種々に之を轉用して練習せしめんことを要す。

三、地理科と連絡して授くべし

備 考

一、本課の構想は、屢瀬戸内海に遊びたる者が其の春夏秋冬の景色等をまとめて記述したるものとして取扱ふべし。

第六課 我は海の子 (凡三時間)

注 意

叙情詩によりて海事思想を養ひ、兼ねて文學趣味を味はしむるにあり。

一、白浪「イソベ」トマヤ「浴シ」ワラベ「不斷ノ花」ナギサ「イミジキ樂」ロカイ「操ル」行手「浪マク
ラ」百尋千尋「カヒナ」赤銅「サナガラニ」ダッヨウ「タツマキ」等の語に注意して授くべし。
二、「コッ」ナレの係結に注意して教授すべし。

三、我が國は海國なるを以て、幼少の時より海事思想を養ふ必要より、かくの如き材料
を採りたるものなれば、十分之によりて海事思想を養ひ、趣味を有せしめんこと
つとむべし。卷七第二十四課第廿五課航海の話と連絡して授くるを要す。

四、此の歌は、ある海邊の子供の話したるもの、如く想像せしむるを可とす。

五、難語多ければ、適當に解釋して授くるを要す。

備 考

一、不斷の花は年中斷えざるの意と、不斷櫻の意とを兼ねたる語ならん。

第七課 車と船 (凡三時間)

車と船の重なる種類を授け、汽車汽船の進歩の大なることを知らしむるにあり。

注 意

一、猫車「揀車」都大路「ネリ行ク」牛車「絲毛車」優美「乗合船」荷足「高瀬」茶船「屋根船」千差
萬別「帆前船」噸「國運發展」砲車「材料車」輻重車「浮城」空中飛行器「座上ノ空談」際限等
の語に注意して授くべし。

二、車ノ兩輪ノ如シ「ナリケン」ノドケサヨ「朝鮮ハオロカ」驚クニタヘタリ等の美辭
佳句に注意して授くべし。

三、汽車汽船に就きては、卷九第十課汽船の發明と連絡して授くべし。

四、本課は車と船とを對照して記述したることに注意すべし。

五、車や船等の交通運輸機關は生活上の便利を増し、文明の進歩に大なる關係を有す
るものにして、其の發達の程度は、以て其の國の文明の程度を表はすものと稱する
も不可なし、本科を授くるに際し、上の意味に於て、船車の形狀に種々あることに感
興を與へ、延いては發明心を養成せん心にて授くるを可とす。

第八課 我が海軍 (凡三時間)

我が國海軍の大體軍艦の名稱其の任務等を授け、國民的思想を養ひ、兼ねて説明文を
練習せしむるを以て要旨とす。

注 意

一、疾風「野分」物トモセズ「村雨」優ニヤサシキ「吹雪」如月「風流」シノバル「眞鶴」鶴「雁」鴻

「鵜鷺」戰艦「巡洋艦」海防艦「砲艦」通報艦「驅逐艦」水雷艇「潜水艇」優勢堂々「決戰」情勢「擊沈」捕獲「船脚」魚形水雷「潜航」水雷母艦「工作船」給炭船「特別任務」等の語に注意して授くべし。

二、軍艦の名稱には、風雨霜雪、期節、鳥類の如き詞に意味あるものあれば、簡短に説明するを要す。

三、卷九第八課我が陸軍と連絡して授くるを可とす。

四、我が國は海國なるにも拘らず、國民は海の念一般に淺く、殊に海軍に關する知識甚だ少し、將來海國民として世界に雄飛せんとするには、甚だ遺憾とする所なり、故に本課を利用して、海軍の組織の大要を知らしめ、海軍に對する思想と同情とを喚起せしめんことに力むるを要す。

五、軍艦の表を作らしめ、内容を總括するを可とす。

備 考

三十二頁の挿繪は實物の二千五百六十分の一の縮圖なり。

第九課 臺灣ヨリ樺太へ (凡三時間)

日用文體にて、臺灣の事情を記述したるもの、地理的事項を授けると同時に、日用文の形式を授くるにあり。

注 意

一、總督府「經營」着々「市區」井然「縦貫鐵道」産類「興味」氣根「竹筏」竹紙「無比」良材「材積」無盡藏「皇恩」ニ浴ス等の語に注意して授くべし。

二、竹筏の繪畫、竹紙、臺灣寫真帖等を用意するを可とす。

三、臺灣の事情を散文に書きては餘りに平凡なれば、特に徳太郎、仁吉の假説的人物をかり來り、徳太郎は臺灣を、仁吉は樺太を視察に行けりと假定し、兩人相別れてより、始めて徳太郎より樺太なる仁吉に臺灣の事情を通じたる如く仕組みたるものなり、されば第廿四課の「樺太より臺灣へ」を参照して授くるをよしとす。

四、候文は崇敬體の口語文と比較して授くるを可とす。

五、「キ、シニマサル、ソ、ロニ……情ニタエズ候使用スル様モメヅラシク等の語は類例をあげしめて應用を試むべし。

備 考

臺灣神社の祭神は、大己貴命、大國魂命、少彥名命、北白川宮能久親王なり。

第十課 熊王丸 (凡四時間)

熊王丸の恩義を重んじたることを知らしめて、古武士の風をしのばしめ、兼ねて文語體叙事文を練習せしむるを以て要旨とす。

注意

- 一「散々ニ」仇「心許ナシ」ク、ズム「イタハリ」回忌「忌日」吉日「元服」モトドリ「具足」涙ニク
レナガラ等の語に注意して授くべし。
- 二形見トモ思フモノヲ力及バズ月日ハ流ル、水ノ如ク涙セキアヘズ等の修辭を味
はしむべし。
- 三熊王丸が正儀の恩愛にほだされて、父の仇を報ゆるに由なく、遂に泣き號びたりし
時の心情を汲ましむべし。
- 四時間に餘裕あらば源義家の安倍宗任を味方に化したることを併せ説き、信義の人
を感化せしむるに偉大の力あることを感ぜしむべし。

備考

本文は吉野拾遺より出づ。

第十一課 アラビヤ馬 (凡三時間)

アラビヤ馬が長途の騎行に堪へたること、及びアラビヤに良馬の多く産する原因を
知らしめて、地理的思想を養ひ、更に動物を愛護する念を養ひ、兼ねて引例法を用いた
る説明文の形式を授くるを以て主眼とす。

注意

- 一「長途ノ騎行」平然「間隔」追手「半死半生ノ體」閣下「風土」丹誠「古來」アヤス等の語に注
意して授くべし。
- 二「脚ノキザメヲ短クス」雲ヲ霞ト逃ゲノブ「夜ノトボソ」ヒラリト……カケ出シタ
等の語句は其の妙味を味はしむるに力むべし。
- 三馬主が馬に跨つて驅け出したるは、全くアラビヤ馬の駿足なることを證明せんが
爲の行爲なりしことは、之を説明せずして悟らしむべし。
- 四此の話に因み、動物の愛護すべきものなることを知らしむべし。

備考

- 一「シバラク大將ノ顔ヲ見ツメ」云々は、此の良馬の價值を知らぬかと云ふ意なり。
- 二「馬ノ耳ニ口ヲ寄セ」云々は、馬に汝の價値を見はせと云ふ心なり。
- 三「後ヲフリカヘリ」云々は、餘裕充分あるを示すなり。
- 四「暮方ニ全カヲ出セシ」云々は、此にアラビヤ馬の眞價を發揮したるものなり。

第十二課 笑 (凡二時間)

笑ふ時には大に笑ひ、時と場合によりては笑ふべからざることを知らしめ、兼ねて文
語體にて議論的に説明したる文の形式を授くるを以て要旨とす。

注 意

- 一、家運「快活」意氣「天性」公明正大「ヤマシキコト」同情「謹嚴」公會「短所」品位「聲譽」歡心「ヲ買フ」ハッラフ「花客」心事「愛敬」聲色等の語に注意して授くべし。
- 二、「上天ニ……工夫スベシ」等の對句は、其の妙味を味はしめ、イハンヤ……ヲヤの呼應は、類例をあげて應用を試むべし。
- 三、本課は文章の結構に能く注意せしむべし、第一段は笑の必要を説き、第二段は積極的に笑ふべきこと、第三段は消極的に笑ふべからざる場合を述べたり。
- 四、本課は卷九第十七課養生と同じく訓誡の課なり、從來の讀本には絶えて見ざる材料にして、實際生活上心得置くべき必要事項なるに注意して授くべし。
- 五、本課は終りに形式上、内容上の總括を怠るべからず、特に訓誡的材料なれば、内容上の約括を重く見るを要す。

第十三課 少年鼓手 (凡三時間)

少年鼓手「ビエール」の勇氣、マクドナル將軍の愛情と勇氣とを知らしめて、教訓の印象を與へ、叙事文を練習せしむるを以て要旨とす。

注 意

一、鼓手「カヒク」シク「百雷ノ一時ニ落チカ、ル様ニヒソキ」雪ナダレ「ムザンヤ」耳ヲ

ツバタツ「異口同音ニ」息モ絶エ絶エ「軍中ノ花」歡喜等の語に注意して授くべし。

二、現在法の多く用ひられたる事に注意せしめ、場合によりては、現在法を用ふるの有力なることを了得せしむべし。

三、本課には美辭佳句頗る多ければ、注意して逸せざらんことを要す。

備 考

- 一、此の話は、もとフランスの讀本より出づれども、各種の英語讀本中にも翻譯せらる。
- 二、マクドナル將軍は一千七百六十五年に生れ、一千八百〇九年に元帥に進み、一千八百四十年に歿したる佛國の將軍なり。

第十四課 出征兵士 (凡二時間)

敵國と開戦中出征兵士を送る父母、弟妹の心情、出征兵士の決心、及び其の様を目撃せる時の感情を知らしめ、叙情詩を授くるを以て要旨とす。

注 意

- 一、「譽」ヤヨ「イトヘ」イザヤ「ヲ」シ等の語に注意して授くるを要す。
- 二、我が國の兵士出征當時の勇壯なる様を偲ばしめ、叙情詩の趣味を味はしむべし。
- 三、「義ニ勝ル父ノ心情」情ニ勝ル母ノ心情「兄ニ協力セントスル弟ノ心情」兄ニ後顧ノ憂ナカラシメントスル妹ノ心情「身命ヲ捨テ、君國ノ爲ニ盡サントスル兵士ノ心

情は充分に感得せしめんことを要す。
四、朗讀に十分熟せしめ、暗誦し得るに至らしむべし。

第十五課 招待状 (凡三時間)

普通の招待状の形式を知らしめ、日用文を練習せしむるを以て要旨とす。

注 意

- 一、招待状「誕生日」「御光來」「光榮」「法會」「御多用」「御參列」「御健勝」「記念碑」「建碑式」「御光臨」等の語に注意して授くべし。
- 二、御光來下サレ候ハ、光榮ノ至ニ存候「先ハ御案内マデ此ノ如クニ御座候」「御多用中 恐入候へ共御參列成シ下サレ候ハ、有リ難ク存ジ奉リ候敬白」「御光臨ノ榮ヲ賜ハリ度此段御案内申上候敬具の如く、言ひまはしに變化あることに注意せしむべし。
- 三、招待状には、場所及び日時を明瞭に記すべきことを知らしむべし。
- 四、追て書の形式、及び其の場合を心得しむること必要なり。
- 五、この三種の招待状は、綴り方の模範として取扱ひ、應用として之と場合を異にしたる招待状を綴らしめ、又は本文の返事を綴らしむること必要なり、但し此の學年の兒童に候文を綴らしむるを可とす。

備 考

「キネン」の漢字は支那小説遊仙窟に見えたる文字にして、記念と書くを本とすれども、今は紀念と書くもの多し。

第十六課 料理 (凡二時間)

料理の一般を知らしめて、家事經濟の思想を養ひ、口語體説明文の結構を知らしむるを以て要旨とす。

注 意

- 一、「經濟」「衛生」「滋養」「満足」「買フベキ物」「消化」「獻立」「動物質」「植物質」「切方」「並べ方」「色ノ配合」等の語に注意して授くべし。
- 二、本課は特に文段に注意を要す、各段の主旨は皆其の初にあり。
- 三、内容を敷衍する際適切なる例を引くこと大切なり。
- 四、料理は特に女子に必要な材料なれども、亦男子にも一通りは心得置く必要あることを知らしむべし。

第十七課 時間 (凡三時間)

時間の貴むべきこと、及び約束の時間を守るべきことを知らしめ、抽象的説明文を練習せしむるを以て要旨とす。

- 一、修學「産ヲ破ル、將、無爲、坐食、年齒、片言隻句路傍、休養、從事、徒費、ヨクノト」未
 練「訪問」時間ノ賊「貴重、通信、交通ノ機關等の語に注意して授くべし。
- 二、本課は卷九第十七課と同じく教訓材料にして、而も趣味に富めり、されば讀ましむ
 るのみにして、教訓の印象を深く腦底に止ることを得べし。
- 三、本課の如く抽象的に説明したる材料は、教授者が豊富なる例を以て之を利用する
 ことを忘るべからず、抽象的の説明は引例によりて愈、明確となるものなり。
- 四、本邦人は約束時間を守らざる弊風あれば、修身科と連絡して之が矯正を努めざる
 べからず。

備 考

- 一、身ヲ立テ父母ヲアラハズ云々は孝經より出づ。
- 二、一寸ノ光陰輕ンズベカラズは、朱子の少年易老學難成、一寸光陰不可輕より取る。
- 三、時は金なりは和蘭土耳其の諺なり。

第十八課 畫工の苦心 (凡三時間)

泉州一國寺に居りたる名畫工の逸話により、眞の藝術は藝術三昧に入りたるものにして始めてなし遂げらるべきことを知らしめ、叙事文の一形式を練習せしむるを以て要旨とす。

- 一、「寄食、住持、愚僧、年來ノ謝恩、心構、サ、ヤク、筆勢非凡、丹青ノ妙、夜モスガラ、路
 スガラ」等の語に注意して授くべし。
- 二、此の畫工藝術の爲には凡ての欲を去り、勞力を惜しまず、一意専心其の道を究めたる苦心の程は、文章の一句一句に表はれ居れば、十分之を知得せしむるを要す。
- 三、文章は柳澤淇園の雲萍雜誌所載のものを種々訂正したるものにして、結構句調共に叙事文の範とするに足る。

備 考

- 一、此の畫工は古法眼狩野元信なりと云ふ、教材中には記載なけれども、元信なりと云ふ傳説ありとして授けて可なるべし。
- 二、一國寺即ち今の大安寺は堺市南旅籠町東四丁目にあり。
- 三、狩野元信は世に古法眼と稱し、狩野家の泰斗なり、畫風溫良にして且つ細密、花鳥山水、人物禽獸共に其の妙を極め、技殆ど神に入る、近世土佐氏の細畫、雪舟の墨畫等、各其の妙を極むるも、獨り元信は彩墨共に其の美を盡し、和漢其の宜しさを得たり、古今に冠絶する所以實に此にあり。

第十九課 瀑布 (凡三時間)

我が國の有名なる瀧及び世界第一の瀑布の壯觀を記して、地理の思想を養ひ、之に關

注 意

する興味を喚起せしめ、又其の記述の方法を知らしむるを以て要旨とす。

- 一、「奇觀」「絶壁」「水晶ノスダレ」「沿フ」「波紋」「玉山銀臺」「シブキ」等の語に注意して授くべし。
- 二、「霧ト散リ雨ト飛ブ」「水烟深谷ヲオホヒ」「瀧ハイヨク」小境ハ益々静カナリ」「白布ヲサラセルガ如シ」等の美辭佳句は、十分其の妙味を味はしむべし。
- 三、本課には譬喩を多く用ひられたり、第五課瀬戸内海の文中、秋ハ紅葉ノ錦ヲ織リ、冬ハ白錦ノ雪ヲ重ヌなども比較して充分其の用法を悟らしむべし。
- 四、本課教授の際には、寫眞繪畫の類を利用することを怠るべからず。
- 五、瀧の有様は趣味多き種々なる形式を以て記載せられたれば、各其の形式の異なることを知らしめざるべからず。

備 考

- 一、養老孝子の傳説に就きては、日本書紀、十訓抄、古今著聞集、本朝孝子傳等を參考すべし。
- 二、ナイヤガラ瀑布は舊高等小學讀本卷六第十五課、ナシヨナルリノダ、四の文を參照すべし。

第二十課 鵜 飼 (凡三時間)

天下の奇觀たる長良川の鵜飼の有様を知らしめて地理的趣味を養ひ、記事文を練習せしむるを以て要旨とす。

注 意

- 一、「鵜飼」「中旬」「遊船」「鵜匠」「風折烏帽子」「コシミノ」「カマッリ火」「右往左往」「浮沈」「手練」「波ニクダクルカガリ火」「半月」等の語に注意して授くべし。
- 二、本課は叙事的記事文とも見るべきも、説明體の所多く、其の構想一貫せざるが如し、注意すべし。
- 三、卷三第十四課「ウトカラス」に連絡せしむるを可とす。
- 四、本文は作者の位置を考へしめ置くこと最も必要なり

備 考

- 一、永祿七年織田信長、長良川に漁を観る、鵜飼時に生鮎と鮎鮎とを供せしに、信長いたく之を賞して鵜匠と改稱し、鷹匠と同じく待遇し、戸に米十俵を給し且つ漁船をも給したりとぞ。
- 二、毎夜捕漁時間凡そ三時間、一時間一鵜の捕獲する魚數は百二十尾より二百尾に至ると云ふ、一舟十二羽の獲る所を推すべし。

第二十課 紡 績 (凡三時間)

紡績作業の一斑を知らしめて、工業に關する知識を興へ、説明文の形式を練習せしむるを以て要旨とす。

注 意

- 一、「紡績」綿花「廻轉」整然「筵綿」雜物「梳綿機」精巧「レ」ス「篠形」練篠機「精紡機」絲車「機敏」蜘蛛ノイト等の語に注意して授くべし。
- 二、「吹雪ノ風ニクルフガ如シ」「イヨク」延シテイヨク「細クシ」等の佳句は種々に轉用して充分會得せしむべし。
- 三、比喩法は何れも眞に迫り居れば教授に際して之を逸せざる様注意すべし。
- 四、學校附近に工場あらば是非觀察せしむるの要あり。

備 考

- 一、現今世界中にて斯業の最も盛なるは英國にして、世界紡績の三分の二を占むと云ふ我が國にては大阪最も盛なり。
- 二、筵綿。紡績作業の第一段は筵綿を作るにあり、綿花は俵中に壓せられ居るが故に、之を開俵機にかけて荒ほぐしをなし、且つ混綿に便せしむ、混綿は二種以上の綿を混用することにして、よく混ざる様にするには、ほぐさざるべからず、さて混綿が出来れば之を開綿機にかく、開綿機は打子の著しき力にて綿を鐵格子に打ち付け、

の結塊を解く、鐵格子の下はごみ箱になり居る故に、土砂其の他は此の下に落ち、撥ね出されたる綿は其の次の箱樋の中を通過して次室に至る、此の綿は圓筒形の塵籠に吸付けられ、且つ雜物を除去せらるゝものなるが、此の際綿の細片飛散して、本文形容の如くなるなり、これ扇車の風の爲にかく塵箱に吸付けらるものにて、雜物を塵籠中に放散し、塵籠の廻轉の爲に其の面に受けたる綿は筵綿の形となり、鐵の四軸に巻かれ遂に直徑一尺餘の捲綿となる、而して此の捲綿は一定の太さに達すれば、自ら軸の廻轉中止せられて外るゝなり、次の機械なる打綿機は、此の捲綿四本を延べて四枚の筵綿となし、相重ねて又打ち、遂に筵綿となすなり。

三、梳綿機。髪を梳りてふけを取ると同様なる働をなす、綿に櫛を當つるが故にかく命名したるものなるべし、前の作業に於て大抵の雜物は除去し得るも、未だ綿の種葉の碎片、纖維の切片等の混入あるが故に、之を除去し、筵綿を引き伸ばして之を薄きものとす、此の機械の主目的は即ち此の淨綿、筵綿の二作用にあり、筵綿の一巻を横にかけ置けば廻轉器運轉して其の一端を食み、次第に筵綿を解きて前に進む、進められたる筵綿は細小の針綿にて作られたる刷毛の間を通り、且つ梳られ、且つ引伸ばされながら前方に進むなり、而して刷毛は大なる鼓胴の外表面と其の蓋なる穹窿の内面とより成り、其の二つの刷毛の廻るために綿を其の間に食ひ寄せて梳綿

の目的を達するなり。

四、梳綿機から出た綿花。太鼓胴を通過したる筵綿を見れば、雪白にして一點の汚塵なく、前に開俵機にて見し時とは全く其の觀を異にす、且つ綿花の一片並びとも稱すべきか極めて薄き層をなし、本文に形容せる如き全く水晶の簾をかけたるが如し、殊に不思議に思はるゝは、此の薄きレース状の筵綿が自然に拇指大の篠形となり、圓錐形の鐵罐内に入り、渦形をなして罐内に満ちて止むにあり、此の篠綿は筵綿の長さの九十倍乃至九十五倍の長さに延長せらる。

五、練篠機。次に働くは練篠機、粗紡機、間紡機、練紡機、精練紡機の五にして、こゝに始めて絲となるなり、何れも其の働は大同小異にして、唯粗より精に入り、篠卷の太さの綿を細くして細絲となすに過ぎず、此の五種の機械のする引き伸す、撚をかける、管に巻く等の事は、機械力のみにして、工女はたゞ其の切斷を結ぶ位に過ぎず。

六、精紡機。絲の始めて錘に上る機械なり、之を机と腰掛とに例へんに、精練紡機にて出來たる管に巻かれたる細絲は、數十相列ねて机の上に立てられ、各其の絲を食ひ、數對の圓轉子あり、絲卷轉じ圓轉子轉じ錘の引くに應ず、錘は手紡車の錘に當るものにして、腰掛の方に列ね立てらる、此の腰掛は其の脚下にロールありて、机の方に向ひて六尺餘りの間を運動すべき仕掛なり、今の机の方に百箇の管絲を有し、腰掛

の方即ち錘臺にも一百の錘を有するものとせんか、机の方に接近し居れる腰掛がロール上を退けば、錘は廻轉して絲を六尺だけ引出し、且つ撚をかくるを見る、机の方に進む時は、今引かれたる絲の全量は、錘に巻き付けらるゝこと、手紡車にて、ブンと引き出して少しく逆轉したる時、それを錘に巻くに異ならず、かく一進一退して止まざるものなるが、工女は此の間絲の切斷を結ぶに臺の進むを追ひて手敏く業を終へ、臺を退くと共に後戻りして切斷の有無を監視するのみなり。

七、我が國にて最も大なる紡績會社は、東京府下鐘ヶ淵紡績會社にして、錘數十四萬一日分の仕上げ絲の長さは優に地球を五十三卷するに足るべしと云ふ。

八、我が國にて始めて紡績機械を輸入し該業を經營したるは、鹿兒島藩主島津齊彬にして、文久年間であり、明治三年同氏再び和泉の堺に於て斯業を起し、斯界の模範を示せり、明治十二年政府は新式機械を輸入して此の獎勵につとめ、明治廿九年綿花の輸入税を免除してより、其の發達著しく、遂に今日の盛況を見るに至れり。

九、完全なる紡績機發明者は、英人、リチャード、オークライト氏なり。

第二十二課 蟲の農工業 (凡二時間)

蟲類の本能によりて、農工業に類したる仕事を營むことを叙して、蟲類相互の關係及び其の人生に對する關係を知らしめ、理科的思想を養ひ、且つ文章構成上比喩を用ふ

注意

るの有力なることを知らしむるにあり。

一「葉卷蟲」「裁縫」「醸造」「油蟲」「牧畜」「部屋」「廊下」「白蟻」「木質」「土木技師」「收穫蟻」「タヒスラ」等の語に注意して授くべし。

二類トモ見ルベシ「耕スニ似タラズヤ」「一種ノ牧畜ナリ」「土木技師トイフベシ」「收穫ニ異ナラズ等の言廻はしには、特に注意して其の巧妙なる所を味はしむべし。

三「蜘蛛」「蚯蚓」「蟻ノ作業」「醸造」「建築」「牧畜」「土木ノ意義等を明かに了解せしめ置かざれば本課の妙味を感ずること難ければ注意を要す。

四「兒童の知識を顧慮して略叙法を用ひたる處と、精叙法を用ひたる處とあり、注意して授くるを要す。

第二十三課 物の價

物の價を生ずる原因及び物價の高下する事情より、普通の價の意義を説き、供給に限りあるものは一定の價なきものなることを引例説明したるものにして、主として經濟思想を養ふにあり。

注意

一「物ノ價」「隨意」「飾」「實用」「時トシテ」「需用ト供給トノ關係」「傾キ」「轉業」「書畫」「古器物等の語に注意して授くべし。

二、本課は一事を説明する毎に必ず例をあげたり、故に此の例を削除したるものと比較して、如何に引例法の説明に有力なるかを知らしむべし。

三、總括として次の如く事柄をまとめしめよ。

物の價の生ずる原因 効用あること。
隨意に得られざること。

物の價 物の價の高下する原因 需用供給の關係によること。

物の價は普通の價を本として上下すること。

供給に限りある物は一定の價なきものなること。

第二十四課 樺太より臺灣へ (凡四時間)

日用文體にて、樺太の事情を記述せしものにして、地理的事項を授けると同時に、日用文の形式を授くるにあり。

注意

一「光陰」「御近況」「新版圖」「凍結」「流水」「唯一」「不凍港」「樺太廳」「輕便鐵道」「日露ノ境」「呈シ」
「特殊ノ網」「漁網」「壯快」「灣頭」「天然林」「伐採」「收益」「開拓」「極北」「極南等の語に注意して授くべし。

二、光陰ノ如ク、業務ニ追ハレ、一條ノ大道、多々コレアリ、住メバ都トヤラ等の佳句美辭は充分味はしむべし。

三、本課は特に内容に注意して授け、漁業、林業等の説明は、多少敷衍して其の有望なることを十分會得せしむるを要す。

四、第九課を参照するを要す。

五、第九課と同じく本課は候文の模範には非ず。

第二十五課 諸葛孔明 (凡四時間)

諸葛孔明の忠節及び其の人と爲りを知らしめ、歴史思想を養ひ兼ねて語義をよく練習せしむるを以て主眼となす。

注 意

- 一、後漢、漢朝、末流、英明、復興、賢士、才名、イホリ、信賴、軍師、首相、ユダネ、タスクベクンバ、アヘテ死力ヲ盡シ、忠節ヲ致ス、對立、維持、出師、沈着、歎ジテ、天授、嚴正、舊功、軍律、涙ヲフルテ、責ヲ引イテ、陣營、奇才等の語に注意して授くるを要す。
- 二、天下麻ノ如ク亂レテ、アタカモ魚ノ水アルガ如シ。
- 三、言々皆忠君ノ至情ヨリ發ス、機ニ臨ミ變ニ應ジテ智謀百出セリ等の美辭佳句は其の妙味を味はしむべし。

三、支那歴史を知らざる兒童に人名地名共に解し難ければ、地圖を利用して内容を平易に敷衍して、よく理解せしめんことを要す。

四、本課の文章は漢文調にして、従つて難句難語多ければ、これが説明には特に注意を要す。

第二十六課 韓國の風俗 (凡三時間)

朝鮮人の家屋、服装、墓、習慣等を知らしめ、地理思想を養ふにあり。

注 意

- 一、案内、構造、數條ノミゾ、天井、辛抱、ユルヤカ、冠禮、斬髮ノ風、都市、村落、外出、ウチカケ、上流、興、キヌタ等の語に注意して授くるを要す。
- 二、數シレズ、村々相應ジ等の語は種々に轉用して應用を試むべし。
- 三、本課の題目韓國の風俗とある韓國は勿論、文中の韓國も併合の今日は宜しく朝鮮と改め授くべし。
- 四、本課は前課の如く難句難語少けれども、内容に於ては頗る説明敷衍を要するものあり、教授者は須く形式よりも内容の説明に力を注ぐを要す。
- 五、高等讀本新制第三學年用下の第十八課を参照すべし。
- 六、寫真繪畫等を蒐集して示すこと必要なり。

備考

七、新附の同胞に對する心得を授くべし。

- 一、チヨンガト 總角の韓語なり、支那の辮髮の如きものなり。
- 二、冠禮 冠を着くるときは髪を結びて之を亂さぬ爲に廣き紐にて縛る故に時々頭痛眩暈を起すことを云ふ。
- 三、キヌタ 衣板きんたの約なりと云ふ、布帛をうつに用ふる木又は石の臺を云ふ、槌にてうつなり。

第二十七課 平和なる村 (凡三時間)

理想的農村の状態を描きて、平和の幸福なるを感ぜしめ、以て地方自治の精神を涵養するにあり。

注意

- 一、生計ヲ立ツ、勸業、模範、麥稈真田、花筵、手ヲ空シウス、舊家、公平、敬愛、改選、勤績、着實、温厚、全村一致、原案、可決、耕地整理、完成、改修、灌漑、排水、水田乾田、二毛作、利目、里道、青年、植林、犯罪者等の語に注意して授くべし。
- 二、自治制の運用宜しきを得れば、此の如き幸福なる郷村を見ることを得べき事を、最も強く感ぜしめんことを要す。

も強く感ぜしめんことを要す。

- 三、殖産教育、村會、耕地整理等のことも丁寧に説明するを要す。
- 四、本文を書きたるは村内の大人なりとして取扱ふべし。

第二十八課 同胞こゝに五千萬 (凡三時間)

我が國土、國體、國民性より、産業の發達、國運の發展、國民の抱負、國民の規範等を知らしめて、大國民的信念を得しめ、兼ねて叙情詩を味はしむるを以て要旨とす。

注意

- 一、同胞「ハルケキ昔、萬世一系、大ミイツ、アマネキ光、細戈千足ノ國、名ニ負ヒテ稱ヘシ、君子國、遺風、瑞穂ノ國、努力、古今ノ粹、カンガミテ、日進月歩、天職、ノリ給フ、戊申ノ詔書、カシコシヤ、大ミコトノリ等の語に注意して授くべし。
- 二、本科は正しく修身科材料なれば、其の心して授くるを要す。
- 三、内容上さして困難なる點なしと雖も、語句には難きものあれば特に注意して授くるを要す。
- 四、一ツツの歌に就きては、其の大意を知らしむること肝要なり。
- 五、勸告語及び戊申詔書は、讀方及び大意は此の期の兒童には必ず出來得るまでに至らしむると必要なり。

備考

一、細戈千足 日本書紀神武の巻に見え細戈の細は戈をこめていふ語、戈は武器千足は物の十分足り備はるの意、要は精良なる武器の多き國と云ふ意、つまり武勇の名譽は武器の精銳にて十分足り備はれるより、國名こゝに起れるなり。

二、君子國 聖武天皇の天平勝寶四年藤原清河唐に渡れる時、玄宗皇帝其の容姿の優雅なるを見て禮儀君子國と稱せりとぞ。

國定教科書取扱法讀本尋常第六學年(卷十二)

第一課 天皇陛下の御製 (凡二時間)

天皇陛下の御勅語並に御製によりて御聖德を仰がしめ、兼ねて文語體説明文の形式を授くるを以て主眼とす。

注意

- 一、御聖德「萬機ノ政ヲミツナハス」折ニフレテ「拜察」カシコシトモカシコシ「協同」信賴「遠」御祖「軍ノニハ」許サザラン等の語句に注意して授くべし。
- 二、誰カ御聖德ノ山ヨリモ高ク……仰ギ奉ラザラン「常々此ノ心アリテ」其ノ目的ハ達シ得ラルベキの用法を練習すべし。カナの用法を類例によりて練習すべし。

備考

一、本課の御製は歌道獎勵會發行の日月帖よりとりたるものにして、神代より承けし云々以下三首は、陛下の平時の御製、國民は一つ心に守りけり云々以下の三首は、明治三十七八年戰役の際の御製、最後の一首は戰後の御製にして、何れも國家を御軫

念あらせらるゝ御聖意を仰ぎ奉るに足る。
 二、治ニ居テ亂ヲ忘レズは易の繫辭傳の君子安而不忘危居治而不忘亂に出てたる語なり。

第二課 日本海海戦 (凡三時間)

世界に有名なる日本海海戦の起因戦況及び結果を叙したる戦記文を授けると共に我が海軍の精銳なることを知らしむるを以て主眼とす。

注意

- 一、本課には難語難句非常に多きを以て特に注意して授くべし。
- 二、小軍艦ヲシテ敵艦隊ヲ沖島附近に誘ヒ寄セシム敵ハカナハシのジトズ風號ビ海怒ル波浪山ノ如ク火煙海ヲオホヒ等の語を會得せしむべし。
- 三、戦勝の報答文は我が國民精神を充分にあらはせることを注意しこれに對する勅語は陛下の祖宗崇敬の聖意をうかゞひ奉るに足ることに注意して授くべし。
- 四、本課は適當なる地圖を用ゐて其の事實を知らしむべし。
- 五、當時東郷司令長官下士卒の苦心を想見せしむべし。

備考

- 一、敵の兩旗艦とは提督の乗れるスワロフと司令官フェールケルザム少將の乗れるオスラビヤとをさす九頁の一驅逐艦とはビエードウイなり。
- 二、挿繪は四十一年一月海軍大臣より全國各學校に頒ちたるものによる三十八年五月二十七日午後二時頃の戦況なり。

第三課 造船の話 (凡二時間)

口語體説明文を用ゐて造船の順序及び我が國の造船業の概況船渠等を知らしめ工業に關する知識を興ふるを以て主眼とす。

注意

- 一、綿密ナ設計圖「切斷面」構成「縮圖」構造分圖「實物大」大規模「大鐵鏈」時「船臺」盤木「工廠」私設「修繕」船渠「コンクリート」等の語に注意して授くべし。
- 二、技師と技手鍛工場と木工場龍骨脊骨と肋骨とを比較して説明すべし。
- 三、大根ヲ切ル様に「人ノ脊骨ノ様ナモノ」サテソレカラ船宅ヲ分ツタリ……タリノタリ石テ疊ムカ……カしてあるの「カ」なる語句の用法を味はしむべし。

備考

一、十三頁の挿繪は厚鐵板を切斷するところ、十四頁のは龍骨に肋材を組み立つると

ころを寫生したるものなり。

二、三菱造船所は長崎、川崎造船所は神戸にあり。

三、コンクリートとは砂とセメントとを水にて練りこれに砂利を混じたるものなり。

第四課 天氣豫報及び暴風雨警報 (凡二時間)

氣象調査の必要その方法及び發表等につき説明したる文にして、氣象に關する知識を養ふを以て主眼とす。

注意

一、氣象臺「測候所」「熱帶」「寒帶」「天氣圖」「大勢ヲ豫告ス」「觀測」「揭示」「信號所」「圓筒形」「圓錐形」「天氣要素等の語に注意して授くべし。

二、向フ二十四時間の向フ「天氣圖ヲ見タルコトアリヤ」の「アリヤ」なる語を類例によりて會得せしむべし。

備考

警報と信號とにつきては、明治四十一年三月廿八日の官報にあれば参照すべし。

第五課 動物と植物との關係 (凡二時間)

昆蟲と花鳥獸と果實との關係並に動植物の呼吸作用と其の實驗及び相互の關係の

一般等の説明により、動植物は共存體なることを知らしめ、理科的知識を與ふるを以て主眼とす。

注意

一、「花粉」「同種」「ヒョ」「ツグミ」「ツイバム」「オノヅト」「散布」「呼吸作用」「酸素」「炭酸瓦斯」「消費」「同化作用」「炭素」「供給」「枯死」「與ツテ」「腐敗物」「密接等の語に注意して授くべし。

二、「……與ツテ大イニ力ガアル……割合ニ長ク生キテキル」等の語句は、類例によりて練習すべし。

第六課 鎌倉 (凡二時間)

武家時代多年の覇府たる鎌倉の名勝舊蹟を叙したる新體詩なれば、歴史に連絡して當時の盛況を追想せしむべし。

注意

一、「露坐」「オハシマス」「雪ノ下村」「キザハシ」「舞ノ袖」「マウツ」「悲憤」「ヲキヌヘシ」「興亡」等の語に注意して授くべし。

二、「問ハバヤ遠キ世々ノ跡」「シヅノヲダマキクリカヘシカヘセシ人ヲシノビツ、昔ノ音ヤコモラン」等の語句の妙味を知らしむべし。

三、本課の新體詩は名勝舊蹟に對する感情を巧に述べたるものなれば充分に暗誦せしむべし。

備考

- 一、露坐の大佛 青銅を用ひ高さ三丈八尺、建長四年八月の鑄造なり。
- 二、シヅノヲダマキ云々 文治二年四月八日源義經の妾靜が鶴ヶ岡八幡の若宮仁徳帝を祭るの廻廊にて舞ひたるよきの歌よりとれり。
- 三、建長寺は北條時宗の建立にして宋の大覺禪師道隆之が開山たり。

第七課 鳥居勝商 (凡二時間)

戰國武士の典型として鳥居勝商の忠節を叙し、調伊企儼の勇氣を附記したる文語體傳記文にして、兒童をして義勇奉公の心情を養成せしむるを以て主眼とす。

注意

- 一、攻メアグム「長圍」柵「援軍」消息「轍ニアギトフ」鮒「成否」ノロシ「ヒラリトバカリ」サモアラン「高ラカニ」圍ヲ解ク「意氣相似タラズヤ」等の語に注意して授くべし。
- 二、……攻ムレドモ……能ハズ「若シ向ヒノ山ニノロシノアガルヲ見バ……過ギナバ……示サン」行ケ「降ルベシ」憂フルコトナカレ「轍ニアギトフ」鮒ノ如シ等

の意義を知らしむべし。

三、調伊企儼のことは日本書紀の欽明天皇二十三年の條を参考し敷衍して教ふべし

備考

- 一、鳥居勝商を勝高とするは野史(書名)に見ゆれども誤なれば參謀本部編纂の日本戰史の長篠の役の附録に據りて訂したるものなり。
- 二、轍ニアギトフ、鮒は莊子外物の篇の語にして、命の且夕に迫れることを喩へたるなり、アギトフは喩喩なる名詞を動詞としたるものなり。

第八課 日本ノ女子 (凡二時間)

日本女子の美德を説明せんがために、模範となるべき歴史上の婦女を列舉し且つ女子たるものゝ心得を示したる文語體説明文なれば、修身に連絡して教授すべし。

注意

- 一、良人「侍女」旗アグ「悲歎」ニクル、ナラン「再舉」志操「慈善」恩愛ヲ忘ル「氣マドフ」温順「愛敬」ノ徳「確固」自若「常ヲ失ハズ」美德等の語に注意して授くべし。
- 二、祖先以來ノ勇名ヲ辱シメ給フカ「其ノ徳ヲ同シウストヤイハン」何時起リ來ラズトモ限ラズ等の語句は類例によりて練習すべし。

三、教材の出所を明かにし、なるべく詳述するはよけれども多くの引例は日本女子の心得を説明せんがためなること。

備考

一、上毛野形名は日本書紀舒明天皇九年三月の條、瓜生保は太平記孝女、房は尋常小學修身書四學年用、稻生恒軒の妻は同書二學年用、松下禪尼は尋常小學讀本卷八、鈴木今右衛門の妻は尋常小學修身書三學年用、山内一豊の妻及び楠木正行の母は尋常小學讀本卷七、水兵の母は同讀本第九に出てたれば、教授者これを参照すべし。

二、瓜生保の母に三子とあるは源琳重照をさす。

第九課 學校落成式 (凡二時間)

町立模範小學校落成式の顛末を述べ、式辭祝文の範例を示したる文なれば、これによりて兒童をして學校に對する觀念を明かにせしめ、式辭文の作り方を知らしむるを以て主眼とす。

注意

一、郡視學「學務委員」有志者「事務官」敷地「建坪」寄附金「就學兒童」改築「計畫」慶賀「席末」
二、列ス「學制發布」普及「學齡兒童」好成绩「日一日ヨリ急ナリ」國民教育「質素」堅固「外

觀「通風」採光「周到」設備等の語に注意して授くべし。

二、祝文の各文段に注意すると共にその眼目たる「本校舎ノ建築ハ……コレニ見ル所ナルベシ」までの一段につき充分味はしめ、學校に於ける他の式辭に應用せしむべし。

第十課 公事ト私事 (凡四時間)

藤堂高虎と加藤嘉明及び蘭相如と廉頗との美談を引例し、私事は軽く公事は重きことを説明したる教訓的材料にして、修身に連絡して道義的觀念を養ふを以て主眼とす。

注意

一、「封ス」否ム「推舉」水魚ノ交「心安カラズ」カメテ「車ヲ轉ズ」叱ス「兩虎共ニ闘フ」無二ノ親交等の語句に注意して授くべし。

二、「誰カ然ルベキ」何ゾ私事ヲ以テ公事ヲ害センヤ「無二ノ親交ヲ結ベリ」トゾのこのところは類例によりて練習すべし。

備考

一、藤堂高虎の記事は野史に、廉頗蘭相如の話は史記列傳に見えたり。

二、水魚の交は卷十一諸葛孔明の條に出づ。

第十一課 阿蘇山 (凡三時間)

日本火山の概況其の代表として世界に有名なる阿蘇火山の成立を細説し、及び一般火山の破裂の有様を記述したる文語體記事文にして、地文的知識を與ふるを以て主眼とす。

注意

一、就中「下ラズ」噴火口「長徑」短徑「突起」活動セル部分「噴孔」ヨナ「消長」複雑「ホドバシ」ル「眞紅」熔岩「スサマジ」火山灰等の語句に注意して授くべし。

二、日本は火山國なればその研究は特に發達せることを附説すべし。

備考

一、富士山の古歌は後撰集新古今集等に見えたり。

信濃ナル淺間ノ山モモユナレバフジノ煙ノカヒヤナカラム

後撰集

富士ノネノ煙ハナホゾ立チノボル上ナキモノハオモヒナリケリ

新古今集

二、富士山の破裂の中にて、延曆十九年貞觀六年寶永四年を以て大なりとす。

三、ヨナは熊本方言にして、火山灰の一種なり。

第十二課 我が國の農業 (凡二時間)

農業の起源、我が國農業の現状及び農業に對する覺悟を述べたる文語體説明文にして、農業思想を涵養するを以て主眼とす。

注意

一、「栽培」起原「耕種」瑞穂ノ國「作付反別」品質優良「取入高」魚介「耕地」狭小「ナヅム」馬匹「急務」誤解等の語句に注意して授くべし。

二、本課は第一段農業の起源、次に我が國農業の由來、作物の現状、養蠶、牧畜、農事改良、末段に農業の價值を挾みたる文なり。

第十三課 國産の歌 (凡二時間)

我が農工業に於ける重要な國産を總合的に知らしむるを主眼としたる七五調の韻文なれば、地理に連絡して教授し、兼ねて産業思想の發達に留意すべし。

注意

一、「合セテゾ」天産「ウマシ」國無限ノ富「キコリ」ノ入ラヌ林「炭鑛」オビタシ「鑛坑」トミ

ニ「無比ナリ」トギ出シ「蒔繪」ノ精巧「市場」フヤセカシ等の語句に注意して授くべし。

三、山ヲウガチテ山ヲ鑄ル「千里比隣」ノ今ノ世の誇張法の使用に注意すべし。

三、本教材は新體詩なれどもたゞ國産を叙列したるものなれば、暗誦せしむるまでには及ばず。

備考

- 一、三池土の浦は共に福岡縣に、夕張は北海道にある炭坑なり。
- 二、山モウガチテ山ヲ鑛ルハ是都賦の採山鑛鏡を和譯脱化せしものトギダシ蒔繪は蒔繪の上に更に漆を塗り、之を乾して砥石にてときたる上品のものなり。
- 三、黒江は紀伊國にあり

第十四課 貿易 (凡二時間)

商業上に關する知識を與へんがために、外國貿易の現況、貿易の心得を知らしむるを主眼とす。

注意

- 一、花客「基ク」需要供給ノ原則「高低」情況「嗜好」變遷「流行」信用「破産」愛顧「商路」干段「不正當」販路「増殖」報國盡忠「平和」ノ戰爭「多望」機敏等の語句に注意して授くべし。
- 二、故に曰く「正直」ハ最善ノ商路ナリとの引用法を類例によりて教授すべし。
- 三、好謔なる手段を用ひてなす廣告に就き特に戒しむべし。

備考

商業に關する材料は、町(一卷)商アソビ(四卷)ヨイ丁稚(六卷)商業問答(七卷)タシカナ保證(十卷)等ありて前出したれば、これらに連絡して、本課に至りて海外貿易のことに及ぼしたるものなり。

第十五課 南滿洲鐵道 (凡三時間)

日露戰役の結果布設したる南滿洲鐵道の本支線、鐵道附近の都邑名勝古戰場等を記述したるものなれば、地理的知識を與ふるを以て主眼とす。

注意

- 一、起點「埠頭」規模「記念」戰蹟「駐劄」要害地「總管」總領事「在留」連結點「根據地」死守「血ヲソ、グ」門戶「豐富」急設「集散地」等の語句に注意して授くべし。
- 二、「永ク世人ノ忘レザル所ナルベシ」我ガ同胞ノ血ヲソ、ギシ地ナラザルハナシ……利用センカ……入ルベシ」の用法を知らしむべし。
- 三、鐵道附近の古戰場につきてはその戰況を略述すべし。

備考

一、駐劄は職務のため外國に在留すること。

第十六課 歐羅巴ノ三大都 (凡二時間)

二韓國の縦貫鐵道は義州釜山間の線とす。
倫敦巴里及び伯林の三大都の位置人口市街交通機關建築物等を記述し其の特色を知らしむるを以て主眼とす。

注意

- 一、貫流「接續」都會「算ス」繁華「困難」十字街頭「一舉手ノ合圖」雅麗「百般ノ設備」世界ニ冠タリ「彫刻」創建等の語句に注意して授くべし。
- 二、雅麗比ナシ「往來織ルガ如シ」心地甚ダ好シ「アヤシムニ足ラズ」等の語句は類例によりて練習すべし。
- 三、本課の文の結構は特に注意して教授すべし。

備考

挿畫の説明 六十一頁の挿畫は巴里の凱旋門にして、ナポレオン一世伊太利埃地利の諸國に勝ちたる記念物にして高さ五十米突幅四十五米突あり六十二頁の挿畫は伯林にて尤も繁華なるウイテル、デン、リシデン市街の一部にして、正而なる建物はブラーストホテルなり。

六十四頁の挿畫は倫敦テームス河畔の國會議事堂なり。

第十七課 獸類の移住 (凡二時間)

氣候食物の關係により獸類には一時的移住、永久的移住、食物を追うての移住、毎年季節による移住等の習性あることを知らしむるを以て主眼とす。

注意

- 一、一時的移住「一隊又一隊」引キモ切ラス「進路」稀ニ見ル「遊牧ノ民」缺乏「洋々タル江流」沿路「飢餓」刻々ニセマル「危害ヲ顧ミズ」突進「魚腹ニ葬ラル」爪牙等の語句に注意して授くべし。
- 二、町ヲ過ギ屋根ヲ傳ヒ窓ヲ抜ケ座敷ヲ横ギリ「の對句」燕ノ春來リテ……ガ如ク「の語の用法を知らしむべし。

備考

本課はバルコローストンの英語讀本五を譯したるものなり。

第十八課 苦樂 (凡二時間)

教訓を主として苦樂を説きたる文語體議論文にして、苦を轉じて樂となすべきことを教ふるを以て目的とす。

注意

一、永遠ノ幸福「少壯有爲」身ヲハカナム「救濟」遠キ慮「心廣ク體ユタカナリ」貧賤「憂苦」疎食「浮雲」進取ノ氣象「引込」思案「優柔不斷」等の語句に注意して授くべし。

二、本課には修辭的語句頗る多ければ注意して教授すべし。

備考

一、遠キ慮云々論語の人無遠慮必有近憂より出づ。

二、心廣ク體ユタカナリ 大學の富潤屋徳潤身心廣體胖より出づ。

三、疎食ヲ食ヒ云々 論語の子曰飯疎食飲水曲肱而枕之樂亦在其中矣不義而且富貴於我如浮雲より出づ。

第十九課 ヨロンプス (凡二時間)

ヨロンプス亞米利加發見の次第を記したる叙事文なれば其の事跡を知らしめ兼ねて進取の氣象を養ひ不撓の精神を鼓舞するを以て主眼とす。

注意

一、香料「絹布」危險「客遊中」一笑ニ附ス「探檢」西曆「暴舉」無謀「片影」身邊「歡迎」引見「勳功」等の語句に注意して授くべし。

備考

一、人ノ山ヲ築ケリ「勳カザル」コト山ノ如シ「朝ノ風ヲ聞キテ」ハ鳥ノ聲カト疑ヒタノ雲ヲ見テハ陸ノ影カト疑フ「手ノ舞ヒ足ノフム」所ヲ知ラズ」の使用を味はしむべし。

二、マルコボロ 伊太利のベネチアの人にして父と共に支那に來り元主に仕へその紀行は東洋の事情を歐人に紹介したる有益なる書なり。

三、七十五頁の挿書の記念碑は伊太利のゼノアにあり頂にヨロンプスの像を置きたり。

第二十課 辻音楽 (凡三時間)

辻音楽師及び一紳士のバイオリンの奏樂を記したる口語體叙事文にして藝術に關する趣味を養ふを以て主眼とす。

注意

一、義足「喜捨ヲ待チ」フ「音曲」聽衆「神曲ニ心ヲ奪ハル」目禮等の語句に注意して授くべし。

二、頭ニハ霜ヲイタバキ身ニハツツレヲマトフ「人知レヌ」涙「美シイ音ガ」ワキ出シタ「重ク沈ンダ」調……何物モ見えモ聞エモシナイ等の語句の用法を味はしむべし。

第二十一課 烈士喜劍 (凡二時間)

赤穂義士の事蹟によりて、その統領たる大石良雄及び烈士喜劍の人となりを知らしめ、深慮の尊ぶべきこと、壯烈の欽仰すべきことを會得せしむべし。

注意

一、從容「美談」精華「發揮」走卒「香花」統領「復仇」家老「人面獸心」カラ「ト」主謀「獸待」墓側「幕末」等の語句に注意して授くべし。

備考

鶴梁文鈔の卷六烈士喜劍碑を參考すべし。

第二十二課 主婦ノ務 (凡二時間)

主婦の日常の務を抽象的に述べ、且つ議論的説明文の形式を授くるを以て目的とす。

注意

一、混雜「不整頓」不始末「手探」傳染病「イタハリカシヅク」感化「責任」ワダカマリ「活計」縁者「身分」資等の語句に注意して授くべし。

二、數フルニイトマアラズ「其ノ母ニヨリテ其ノ子ヲ察セヨ」入ルヲ計ツテ出ヅルヲ制ス等の用法を味はしむべし。

三、特に女兒に對しては、適切なる具體的の説明をなすべし。

第二十三課 孔子ト孟子 (凡二時間)

吾人の尊崇する聖賢孔子孟子の傳記を述べたる文にして、二子の人格に接觸せしむるを以て目的とす。

注意

一、大聖「德化」春秋時代「諸侯」恭儉「遺言」治蹟「有司」戲樂ヲ奏ス「圓滿」人格「市井ノ」感化「機ヲ斷ツ」威奮「爭奪」孝經等の語句に注意して授くべし。

二、君君タリ云々「義ヲ以テ人ヲ動カス」身ヲ立テ云々の用法を味はしむべし。

第二十四課 大國民ノ品格 (凡三時間)

主として社會の公德及び國民の度量の重んずべきことを述べたる文語體議論文にして、大國民たるの品格を會得せしむるを以て目的とす。

注意

一、官位「門地」高尚「公德」度量「公衆」衛生「規律」公共ノ物品「安眠」不具者「公共」營道物「敏速」文明ノ利器「四鄰兄弟」精神「宗教」輕侮「國交」舉止「容儀」等の語句に注意して授くべし。

第二十五課 自治ノ精神 (凡二時間)

二、其ノ心ノ奥ユカシキヲ感ゼズヤ、我等ノ學ブベキ事ナラズヤノ反語に注意すべし。
地方自治團體殊に市町村の制度を知らしめ、自治の精神を養成せんとつとめたる議論文にして、兼ねて法制上の知識を與ふるを以て目的とす。

注意

一、繁簡「協同一致」「誠意」「私交上ノ關係」「強制」「勸誘」「左右ス」「公平無私」「自治ノ本旨」「福利」「産業組合」「慈善事業」「作興」「制度ノ運用等」の語句に注意して授くべし。
二、「一般人民ノ之ヲ助クルナクンバ……得テ望ムベカラズ」「イツクンソ其ノ美果ヲ收ムルヲ得ンヤ」等の語句の用法を味はしむべし。

第二十六課 帝國議會 (凡二時間)

立憲政治の立法機關たる帝國議會の組織任務權限を述べたる文語體の説明文にして、兼ねて國民の權利義務を知らしむるを以て目的とす。

注意

一、「統治」「輔弼」「親裁」「萬機公論ニ決ス」「同爵ノ互選」「勞動」「勅任多額ノ直接國稅」「選舉資格」「公選」「任期」「歳出歳入ノ豫算」「豫算案」「法律案」「提出」「協賛」「裁可」「上奏」「請願」「權能」「文書」下

情上達「聖慮」「盛衰」「安危」「赤心」「參政ノ公職等ノ語句に注意して授くべし。

二、選舉に關する道徳を守るは、立憲國民として特に貴重なることを會得せしむべし。

備考

一、百七頁の挿畫は貴族院の内面にて、玉座は正面に一段高く、其の前は議長席、その左右は國務大臣、政府委員、その前は演壇、演壇の前に速記者席あり、議員は前に列べる机なり。

二、衆議員の選舉資格は年齢二十五歳以上の帝國臣民獨立の男子にして地租その他直接國稅十圓以上を納むるものなり。

第二十七課 軍人ニ賜ハリタル勅諭 (凡三時間)

軍人勅諭の御趣意を説明したる文にして、一般國民に軍事思想を養はしむるを以て主眼とす。

注意

一、「統率」「復古ノ政」「股肱」「頭首」「忠節」「烏合ノ衆」「國權」「一途ニ」「鴻毛」「不覺ノ名」「アハアレ」「大勇小勇」「血氣ニハヤル」「粗暴ノ所行」「事ノ順逆理非」「公道」「質素」「文弱ニ流ル」「輕浮ノ風」「無下」「爪彈」「裝飾」「服膺」「水ツクカバネ」「教訓」「人倫ノ常經」「イソシム」等の語句に注意して

授くべし。

二、ヨソ及びソの掛結ニメ此ノ訓ヲ忘ルナシの呼應如何ヲ日常ノ社會ニ立タシヤシ
一日モ之ヲ忘レンヤの成語に注意すべし。

三、本課は明治十五年一月四日軍人に賜はりたる勅諭の原文を参考し本文を敷衍し
て授け十分に聖意のあるところを知らしむべし。

第二十八課 卒業 (凡二時間)

七五調の新體詩により卒業の喜びを述べ、謝恩の情を養ふを以て目的とす。

注 意

一、ウレシヤナ、オシナベテ、春ニニホフ、イツシカニ、分ケエタル、シヲリ、ヨツ等の語句に
注意して授くべし。

二、柳櫻ノ錦、世ノ海ヲタリテ行カン、學ビノ高嶺ヨヂテ見ン、イカデ我が心ニ開ク智
ハ徳ハ等の語趣を味はしむべし。

三、本課は卒業の感じを巧に寫し出したる叙情詩なれば、その趣味を養はしむるため
充分誦誦せしむべし。

四、義務教育をへたる後に對し、簡單に訓戒すべし。

國語(讀み方)教案例 尋常第六學年

第十二課 笑

尋常小學讀本卷十一 自五十三頁至五十四頁五行

目的 形式——語句——謹嚴、公會、品位、聲譽、歡心を買ふ、花客、愛敬、聲色、中心。

修辭——心身の良薬、いはんや……於てをや、歡心を買ふ、むしろ……とも、
如かず。

實質——笑ふは善きことながら、事物、時、場合によりては慎しむべきことを
諭すにあり。

方 法
一 豫 備

(一) 既授事項問答

- (1) 前回には如何なる事に就きて習ひましたか。
- (2) 格言が有りましたが何う言ふのでした……板書して御覽なさい。
- (3) 親子、夫婦、兄弟、姉妹、互に和合し一家擧つて笑ふ、と板書して御覽なさい。

- (4) 笑ふ事と心身の關係とを述べて見なさい。
- (5) 衛生と書いて御覽、公明正大と書いて御覽(前同様板書せしむ)。

(二) 目的指示

笑ふことは善きことながら、時と事物と場合とに依りては慎しむねばなりません、今日は其のことに就いて習ひませう。

二、教 授

(一) 豫 習

- (1) どんな試みがあるか読んで御覽。
- (2) 大意の問答。
如何なる時は笑ふべからざるか、如何なる場合は……如何なる事は……
- (3) 範讀(難文字摘書)。
- (4) 指名して讀ましむ。
- (5) 徐讀しつゝ、意義尋究。
- (6) 直譯的話し方練習(指名してなさしむ)。
- (7) 修辭の説明。
- (8) 難文字を書取り練習せしむ。

三、整 理

- (一) 新文字と既習文字とを比較せしむ(嚴、嚴、嚴、歡、觀、勸)。
- (二) 全課を達讀せしむ(各讀)。

明治四十四年十二月廿九日印刷
 明治四十五年一月二日發行

有所權著作

編者 福島縣教育會

發行者 東京市日本橋區鐵砲町三番地
 合資六盟館

右代表者 杉本七百九

印刷者 東京市京橋區西紺屋町廿六七番地
 佐久間衛治

印刷所 東京市京橋區西紺屋町廿六七番地
 株式會社秀英舍

發行所

東京市日本橋區
 鐵砲町三番地

合資六盟館

法取書科教定國

國語	修身	算術	地理	歷史	理科	裁縫	手工	圖畫	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	第六學年
定價金	定價金	定價金	定價金	定價金	定價金	定價金	定價金	定價金	定價金	定價金	定價金	定價金	定價金	定價金
三	二	二	二	二	二	二	二	二	十	十	十	十	十	十
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢

振替口座東京一二五五〇番
 電話特圖浪花二七六四番

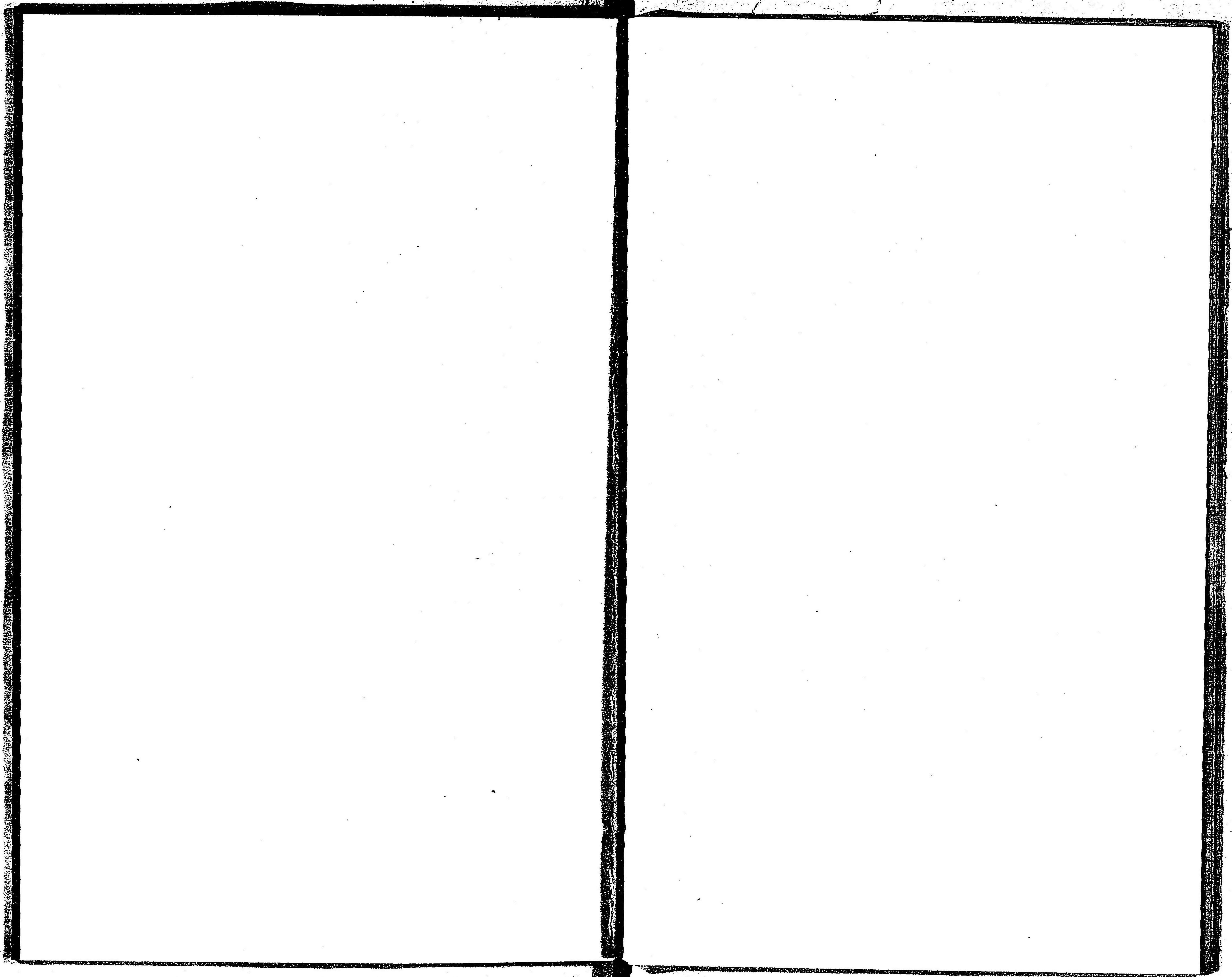
出版圖
書大販
賣所

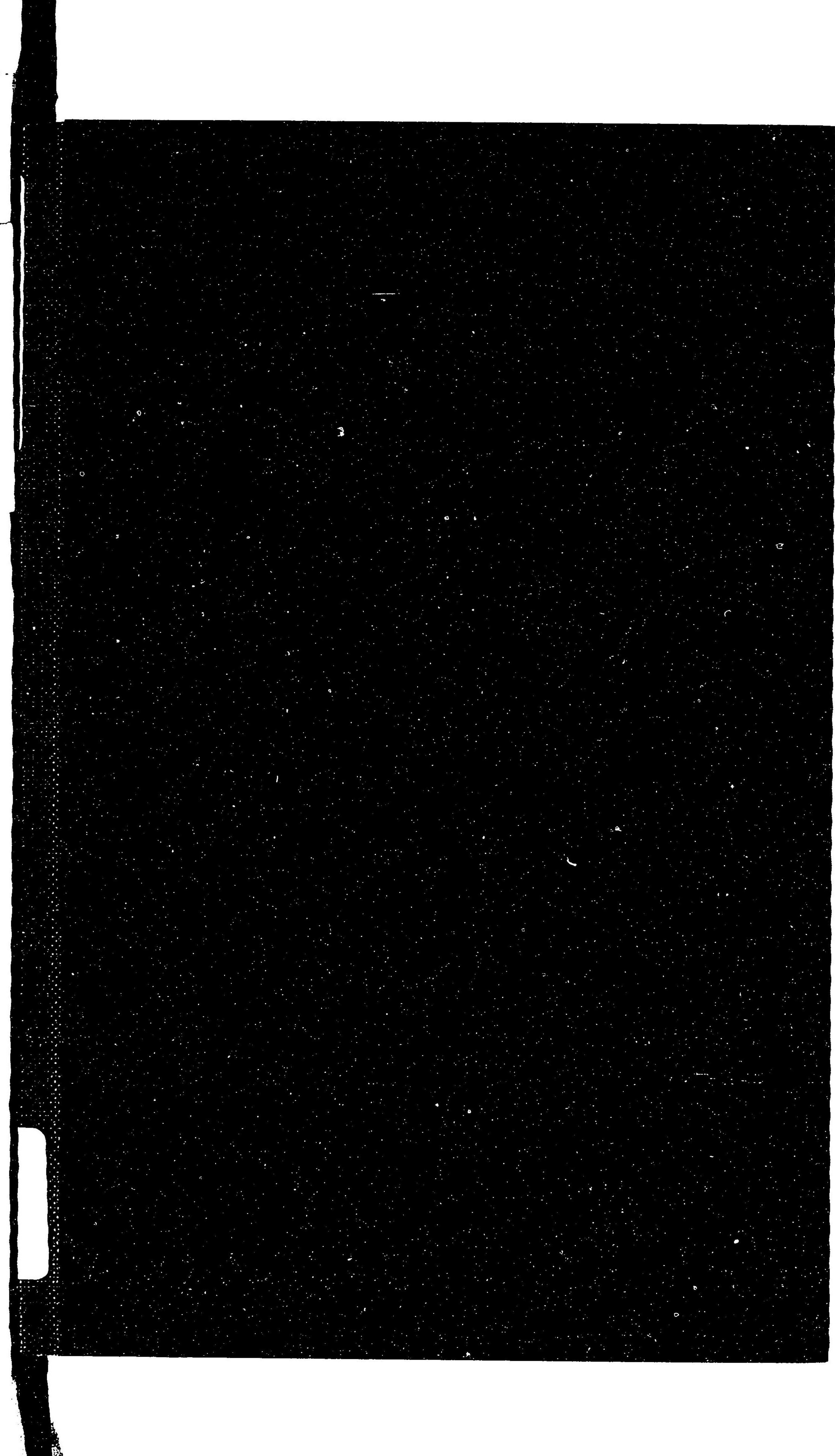
福島縣下
大販賣所

東京市京橋區南傳馬町二丁目 目 黒 甚 七
電話京橋二一六三番 振替口座東京二八〇九番
東京市日本橋區鐵砲町 柳 原 友 吉
電話湯花三三三三番 振替口座東京三〇九〇番
東京市日本橋區本石町二丁目 杉 本 七 百 丸
電話本局一六九八番 振替口座東京五六一三番
長野縣長野市大門町 西 澤 喜 太 郎
長野縣長野市表四ノ町 目 黒 十 郎

福島市 中町 西澤福島支店
福島縣 平町 清光堂書店
福島縣 喜多方町 瀨野書店

販賣所 各縣下國定教科書販賣書肆





特26

419

国定教科書取扱法

福島県教育会

尋常科国語

国立国会図書館

048225-001-6

特26-419

国定教科書取扱法

福島県教育会/編

M45

BEF-2232



